

## 「世界」が求める「学力」とは？

みなさんこんにちは。平成 29 年度も今日で終わり。明日から平成 30 年度の始まりですね。今までお世話になった方たちも、新たな職場に旅立たれたという話を聞きました。みなさんの新天地でのご活躍を、ヤンゴンの地からお祈り申し上げます。

ちなみにこちらの生活ですが、3 月 21 日に3年目の職員が帰国、残された我々で学校を引っ張っていくことになりました。ですが惜別の感傷に浸る間もなく、4 月 6 日には新たに教職員が日本から来緬するので、現在急ピッチで準備中です。当然新年度準備も並行して行っているのなかなか大変ですが、昨年度こういう思いをしながらも嫌顔1つ見せずに我々を受け入れてくれた先輩方の姿を見ているので、先輩方と同じとはいかないまでも、新しく来られる方々に安心してもらえるよう、頑張っ準備を進めていきたいと思います。前任校の子どもたちに『先輩から受けた恩は、後輩たちに返していく』と教えてきた以上、私もそれと同じ様にできるように頑張ります。

さて、そんな中今回のタイトルはかなり仰々しいものになってしまいました。ですが、私が日本国外の学校勤務を希望した目的の1つ『外国から見た日本』に通ずる話ですので、お話しさせてください。きっかけは『早稲田渋谷シンガポール校の先生をお招きしての学校説明会』でした。当然学校説明会ですので、学校の概要や進路状況等の話もあったのですが、説明会終了 20 分間前に次のような言葉がありました。「ところで…今世界の大学ではどのような『学力』をもった生徒が求められているかご存知ですか。」話の概要をまとめてみると、次のようなものでした。



- 今日本では「英語で思考・判断・表現できるように」ということに重点を置いているようだが、その観点からして間違い。「英語の思考・判断・表現」は全てにおいて基本(=当たり前)であり、世界の大学が求めているのはその先。つまり独創的な発想や、既知にとらわれない柔軟な思考を持ち、それを誰にでもわかるように表現し、他者と協同しながら具現化できる力を求めている。
- 日本では「英検」で英語力を測ることが多いが、世界的には「英検」では「英語力がある」とは認められない。「TOEFL」、「TOEIC」もしくは「IELTS」などのグローバルスタンダードとなっているものが基準となる。

この後「こういうことを受け、今日本の大学受験で求める力が変わってきている」と話が進んでいきました。このあたりの話は日本出国前の文部科学省の研修で学んだことでしたが、より具体的な事例(日本の中学・高校・大学の入試問題など)を用いて説明されていて、とても分かりやすかったです。『今世界が求めているもの』を直に肌で感じる事ができ、とても勉強と刺激になりました。



大学入試で「評価される子」が変わる	
これまで	これから
正解が出せる子	最適な答えが出せる子
情報を早く処理できる子	情報を組み合わせられる子
オール5タイプ	1つのことに秀でている子
ナンバーワンを目指している	オンリーワンを目指している
人知れず努力	気前がいい
几帳面で見真面目	精神的なタフさ
喧嘩はそもそもしない	喧嘩しても仲直りができる

問題のマトリックス			
設問タイプ	【知識理解】 A1 知識・理解思考	【応用・論理】 A2 論理的思考	【批判・創造】 C1 創造的思考
手帳 課題 条件	A1 ザビエルの写真を見てこの人物の名前を答えなさい。	A2 ザビエルが日本に来た目的は何か、50字以内で説明しなさい。	C1 もし、あなたが、ザビエルの地教活動をサポートするとしたらどのようなことをしますか。
複 雑 操 作	A2 ザビエルがしたこととして正しい選択をすべて選びなさい。	B2 キリスト教を容認した大名を一人挙げ、その名を100字以内で説明しなさい。	C2 もし、あなたがザビエルでしたら、奉教のために何をしますか。具体的な根拠とともに400字以内で説明しなさい。
実 体 問 題	A3 ザビエルがしたこととして正しい選択をすべて選び、年代の古い順に並べなさい。	B3 キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたか、200字以内で説明しなさい。	C3 もし、あなたが、ザビエルのように知らない土地にやって、その土地の人々に何かを広めようとする場合、どのようなことをしますか、600字以内で答えなさい。

ちなみにこの先生は、多民族国家であるシンガポールで 20 年教鞭をとっている先生だそうです。世界を相手にする進学校で教鞭をとっているということもあるのですが、それよりも言語・文化・生活環境などが多様である『多民族』という環境で長年生活をしていることで、「相手にわかりやすく伝える」という部分がとても磨かれているように感じました。やはり『世界』という舞台上で物事を見ると、自分の物の見え方がいかに小さかったかということを実感します。残り2年の海外生活で今回講師をしてくれた先生に並びたいと思っておりますが、少しでも自分の視野や考え方を広げ、それを日本の子どもたちに還元したいと思います。

それではまた来月、こちらでの生活を報告します。